



森川さんら八人に 感謝状 (町納税組合)

横芝町納税組合の総会が五月十二日に行われ、会長に神子旭さん(鳥喰沼第一納税組合)、副会長に伊藤敬一さん(新青納税組合)、橋川隆さん(中台第二納税組合)が選ばれました。
また、総会終了後に納税組合長会議が行われ、席上、長年納税収納活動に功績のあった方がたに、

- 感謝状が贈られました。(敬称略)
- 山武支庁長表彰(十五年勤続) 森川祐吉(東町第四の二)
- 海保英夫(入間)
- 横芝町長表彰(十年勤続) 海保 豊(宮前)
- 横芝町長感謝状(五年勤続) 田中敬吉(本町第一)
- 瀬利忠作(本町東部)
- 石井千秋(古川竜ヶ塚)
- 沢田 弘(栗山青芝会)
- 吉田政幸(栗山四五会)

みんなが参加し

平等にくらせる よりよい社会づくり



<完全参加と平等>

わが国では、約三百五十万人以上の人々が心身に障害をもっていることが推定されています。
障害者とは、病気になるいは事故などのために身体的・精神的な機能が損なわれ、自分自身では通常の個人生活や社会生活を完全に、または部分的に行えない人といえます。
わが国には、大きく分けて身体障害者約二百十万人、精神薄弱者約四十万人、そして精神障害者約百万人——の障害者がいると推計されています。
また、平均寿命が延び、高齢化社会が進むにつれて、脳卒中の後

遺症などによる障害者が、年々増加する傾向にあります。
わたしたちのだけれども障害者になる可能性をもっている——といっても言い過ぎではありません。
障害者問題は、単に障害をもつ人だけでなく、わたしたち一人ひとりが自分自身の問題として理解し、幅広い社会的な連帯意識をもって解決していかなければなりません。
昭和五十六年——今年が「国際障害者年」です。
昭和五十一年の国連総会で決定された世界的規模の行動で、テーマは、障害をもつ人の社会への「完全参加と平等」です。
障害をもつ人に対する理解と関心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせるよりよい社会づくりをしようという年——「国際障害者年」に当たって、みんな

今年が 国際障害者年

で考えましよう。

実現のための 「五つの目的」

国連は「国際障害者年」に当たって、「完全参加と平等」を実現するために、次のような五つの目的を立てています。

- ① 障害をもつ人が、身体的にも精神的にも社会に適応することができるよう援助すること。
- ② 障害をもつ人に、援助、訓練、医療及び指導を行うことにより、適切な仕事につき、社会生活に十分参加することができるようになること。
- ③ 障害をもつ人が社会生活に実際に参加できるように、公共建築物や交通機関を利用しやすくすること。
- ④ 障害をもつ人の経済活動や社会活動などへの参加の促進について広くPRすること。
- ⑤ 障害の発生の防止及びリハビリテーションのための対策を推進すること。

「横芝町記念集会」 盛大に開催される

国際障害者年横芝町記念集会が五月二十五日に、役場二階会議室で盛大に行われました。
この集会は、国際障害者年に当たり、住民のみなさんに障害者に



対する正しい理解を深めてもらうと開催されたもので、町内の身体障害者や各種団体から百数十名が参加しました。
また、記念集会終了後、参加者による町内パレードが行われました。
同日に、東金市中央公民館を会場として山武郡記念集会所が開催され、当町から身体障害者や各種団体の役員など五十数名が参加、記念集会を盛り上げました。